

人口減少・少子高齢化が見込まれる中、様々な面で課題に直面する恐れがあります！

人口・日常生活サービス

土地利用

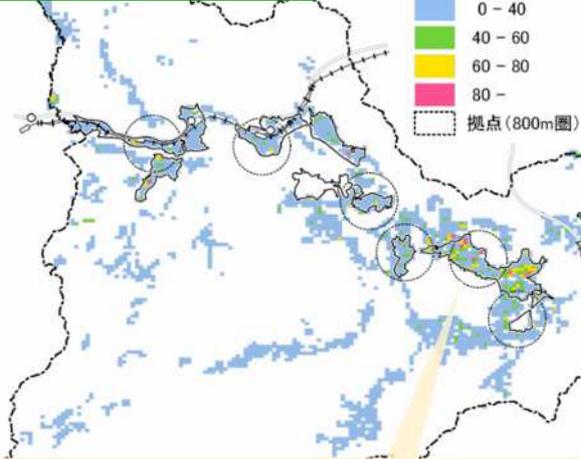
安全・安心

財政

公共交通

例えば... 『人口・日常生活サービス』の面

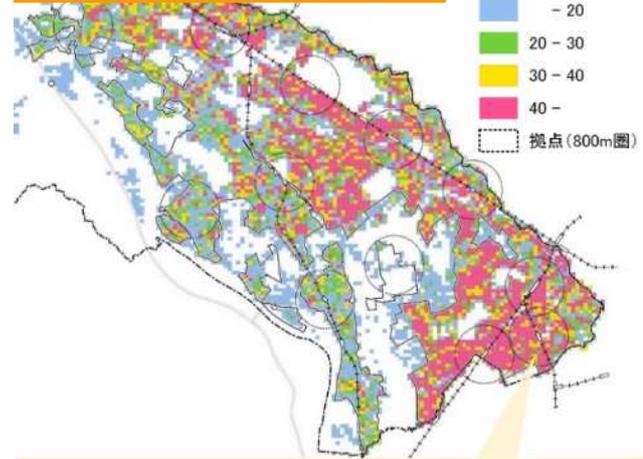
中山間 2035年総人口



例えば...津久井地区(中野)圏内人口
【2015】3.8千人 【2035】3.3千人 **減少率 13%**

人口減少で、生活に必要な施設が減ってしまい、買い物弱者が増えることが懸念されます！

都市部 2035年65歳以上人口

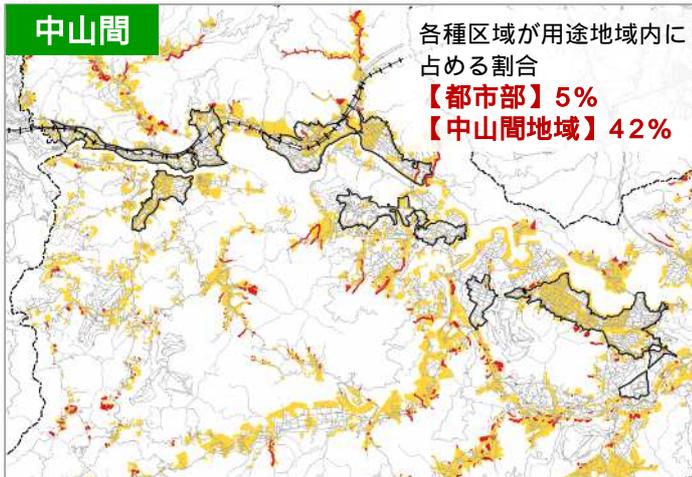


例えば...東林間周辺の高齢化率(65歳以上)
【2015】25.3% 【2035】34.1%

高齢化で高齢者施設の需要が増えるものの、その後の人口減少で施設が過剰になる恐れがあります！

例えば... 『安全・安心』の面

中山間



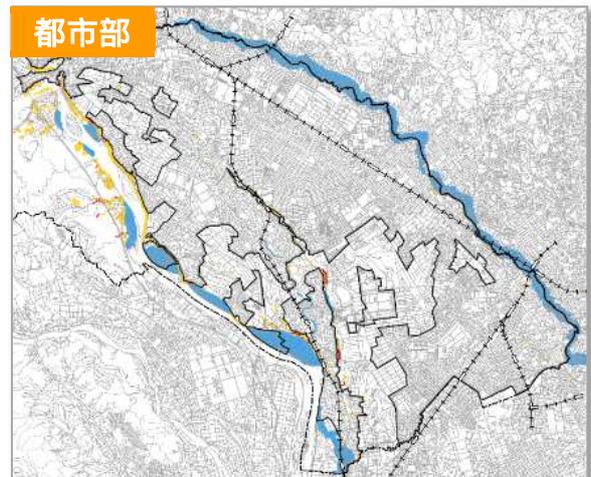
土砂災害警戒区域

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民の生命又は身体に危害が生じる恐れがある区域

土砂災害特別警戒区域

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建物が壊れて住民の生命又は身体に著しい危害が生じる恐れがある区域

都市部



洪水浸水想定区域

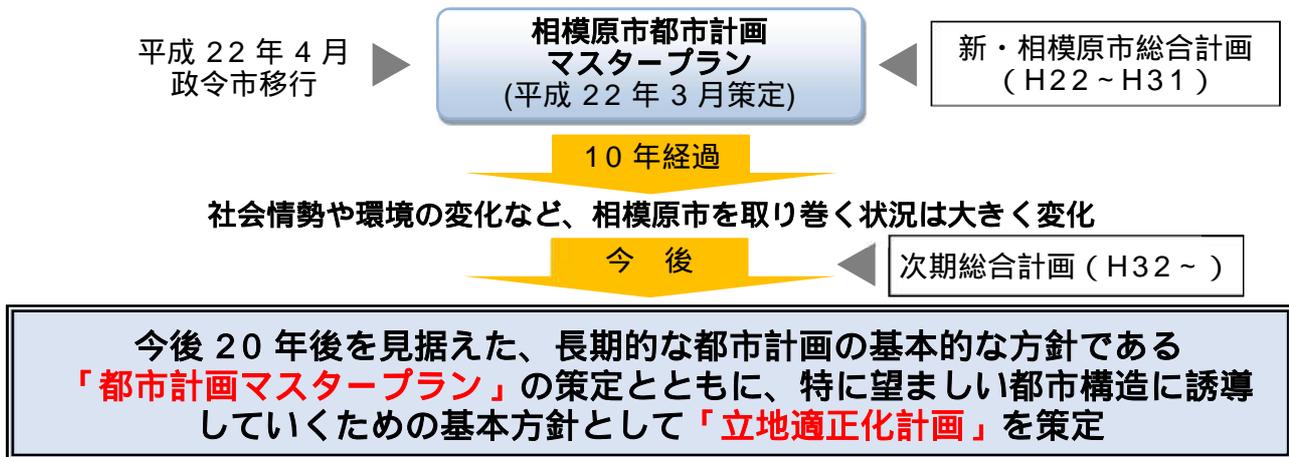
想定した最大規模の降雨で河川が氾濫した場合に、住宅などが水につかる浸水が想定される区域

住宅地にも災害危険性の高い場所があり、人的・物的被害のリスクが懸念されます。

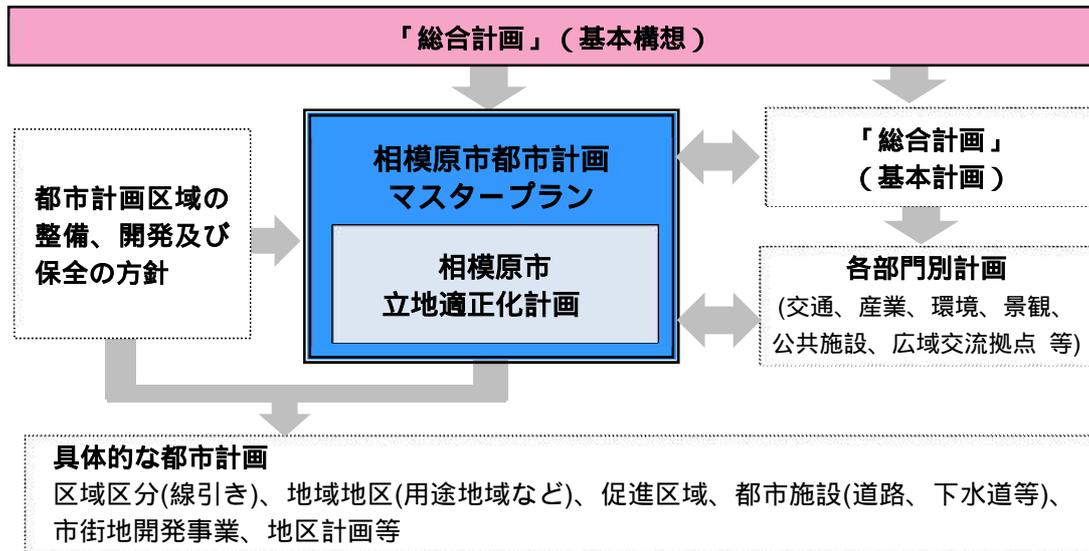


安全・安心で快適な生活環境を実現するため、**都市全体の構造を見直すことが必要**なんだ！

計画策定の背景と目的

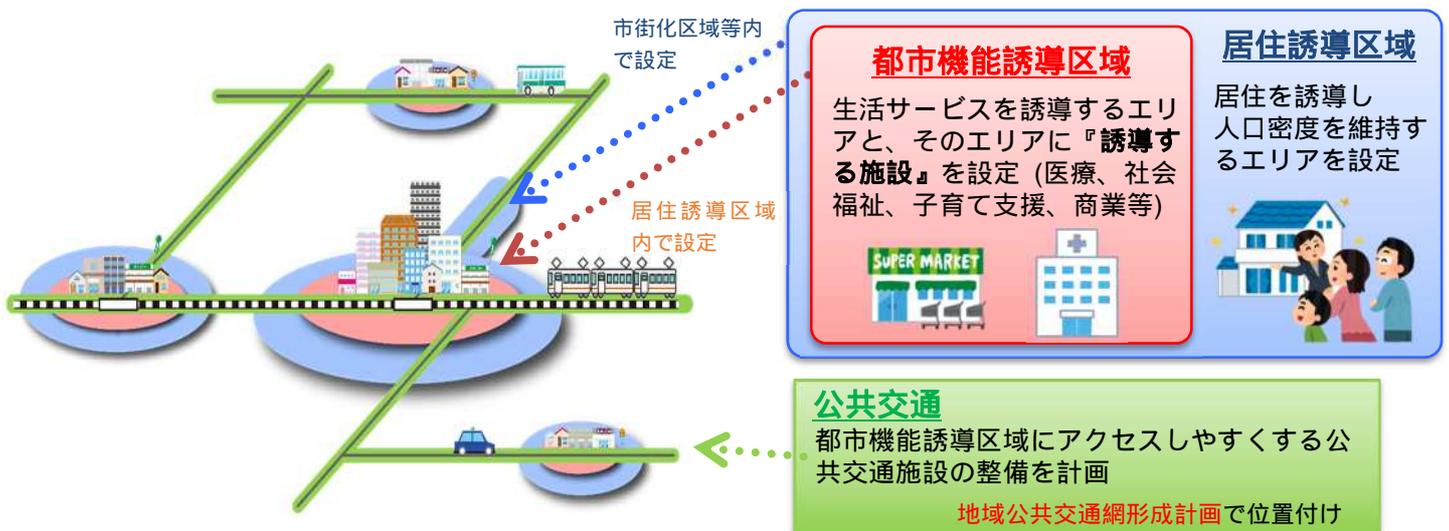


計画の位置付け



立地適正化計画とは

人口減少と超高齢化が進む中で、長期的視点で一定のエリアに誘導することで、持続可能なまちづくりの実現を目指すものです。





凡例	
■ ゾーン くらしとにぎわいのゾーン うるおいといこいのゾーン ■ エリア まちなかエリア 周辺市街地エリア 集落エリア 自然調和エリア 自然公園	■ 拠点 中心市街地 地域拠点 生活拠点 新たな産業を中心とした拠点 交流・レクリエーション拠点 水とみどりのふれあい交流拠点 みどりの拠点 水辺の拠点 首都圏南西部における広域交流拠点 都市の連携拠点
■ 軸 広域連携軸 都市間連携軸 拠点間連携軸 生活ネットワーク 水とみどりの軸	■ 交通網 ●●●● リニア中央新幹線 ○○○○ リニア中央新幹線 車両基地 〰 鉄道 ●●●● 鉄道：整備検討 ○○○○ 鉄道：構想 〰 自動車専用道路 自動車専用道路：構想 〰 道路 道路：構想

ライフスタイルの
多様性の創出
を目指すんだ！

エリア・拠点ごとに、『まちのイメージ』として将来の本市らしい生活の様子を整理します。

まちなかエリア

中心市街地周辺	地域拠点周辺	生活拠点周辺（都市部）	生活拠点周辺（中山間地域）
<p>にぎわいのあるまちなかの中高層住宅などに住み、日用品から専門品まで幅広い買い物ができ、オフィス、ホテルなど、高次の都市機能がそろった都市生活を楽しめる暮らし</p>	<p>駅の近くにある中層住宅や戸建住宅などに住み、地域の中心で日常生活に必要な施設の多くが身近な場所にそろった暮らし</p>	<p>駅や主要なバス停留所の近くにある戸建住宅などに住み、日常の買い物などに生活に必要な施設が身近にある暮らし</p>	<p>豊かな自然環境に囲まれつつ、都市部にアクセスしやすい駅やバス停留所の近くにあるゆとりがある戸建住宅などに住み、日常生活に必要な施設が確保された暮らし</p>
周辺市街地エリア	集落エリア	自然調和エリア	
<p>居住環境との調和を保ちつつ、工業地など適正な市街地を形成</p>	<p>職住近接の環境の中で戸建住宅などに住み、日常生活に必要な施設は隣接エリアで補充しながらゆとりを重視した暮らし</p>	<p>里地や里山の既存集落で戸建住宅などに住み、地域コミュニティの中で農地・山林の維持・保全に携わる暮らし</p> <p>市内外からの観光・交流が行われ、農地、山林など自然に囲まれた中で、農林業などを営む暮らし</p>	

【方針1】人口減少下でも利便性が維持される居住地形成
防災・産業振興等を考慮しながら、人口密度と日常生活に必要な機能の両方が維持される居住地を形成



【方針2】魅力あるまちなかの賑わい形成
首都圏南西部の広域交流拠点としての機能誘導や生活圏域の暮らしを支える高次機能の集積等による、活力と魅力の創出



【方針3】生活圏域を支える公共交通網の形成
公共交通沿線の人口を維持しながら、拠点間や生活圏域内の移動を支える公共交通ネットワークを形成



【方針4】柔軟性のある都市構造形成
人口減少等の変化や、大規模な自然災害の発生にも対応できる都市構造

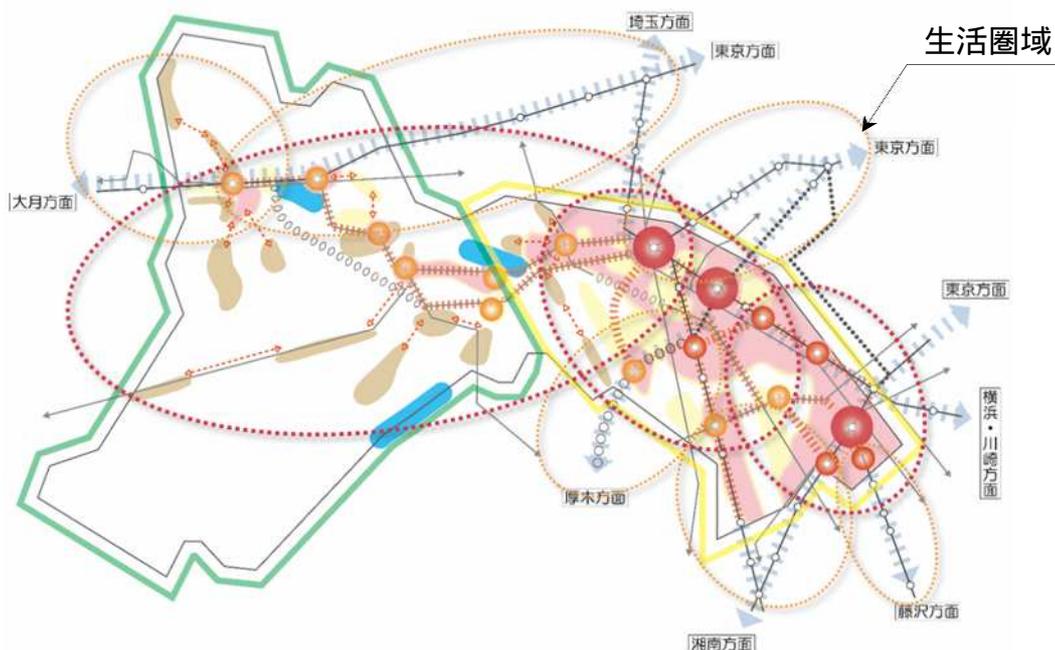
社会情勢等の変化に柔軟に適応した集約連携型のまちへ 立地適正化を図る上でのポイント

都市部

利便性の維持
高次の拠点等の需要の多い箇所の魅力づくり
市街化区域縁辺部等における適切な居住誘導

中山間地域

既存都市機能の維持・確保
災害ハザードへの対応
都市部と中山間を結ぶネットワーク等の確保



- ☑ 拠点の類型や担うべき役割に応じて、生活圏域、拠点・集落間のつながりを形成
- ☑ 周辺都市の拠点と連携・補完するものもある